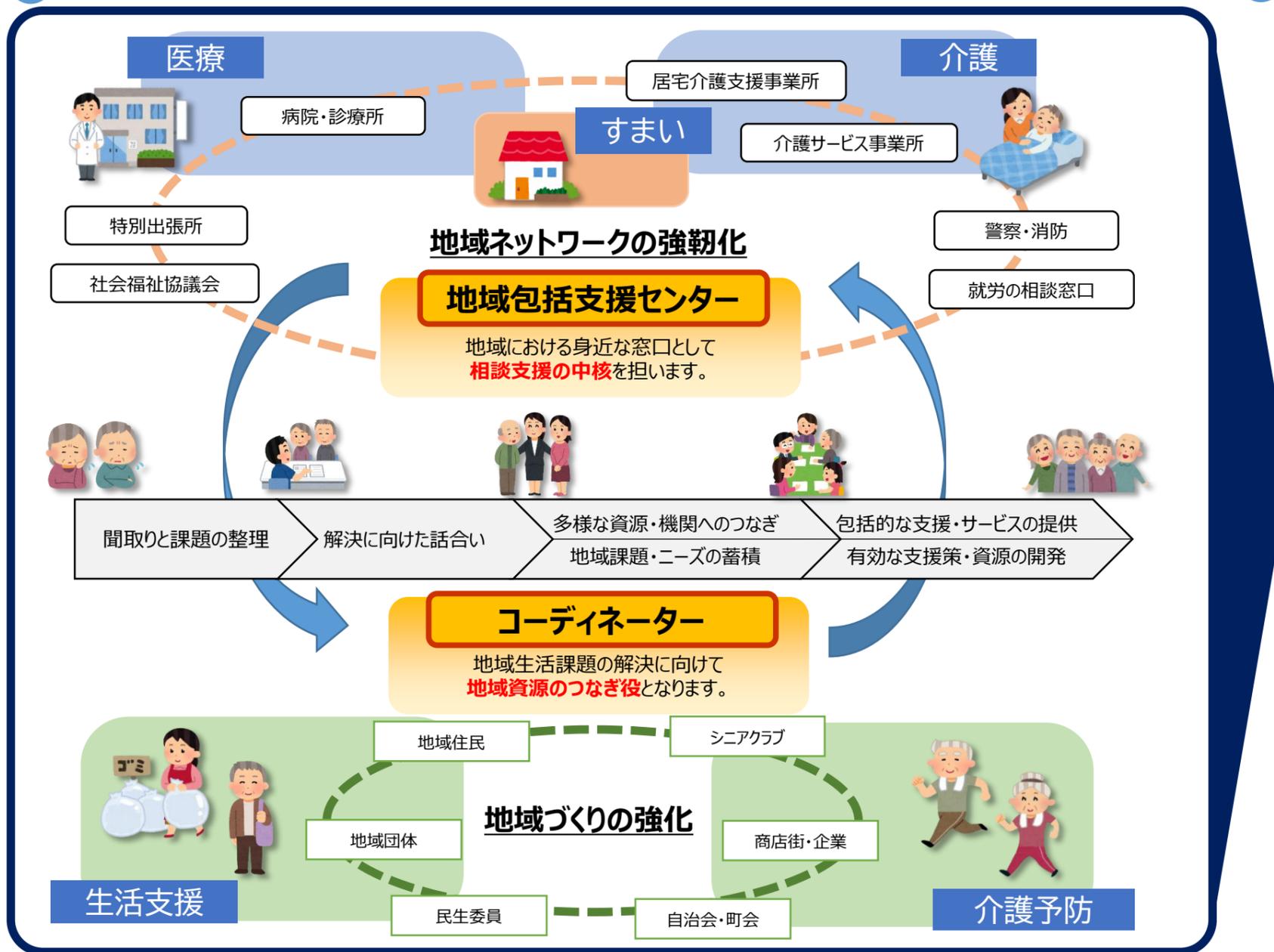


(概念図)大田区版地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの推進



地域包括ケアシステムを発展させ
大田区版
地域共生社会の実現へ

包括的支援体制の構築

複合課題に取り組む個別支援
相談支援機関は、相談者一人ひとりの声を丁寧に聞き取り、課題を整理し、8050問題などの複合課題には関係する複数の相談支援機関が連携して、チームで対応します。また、相談者・世帯の暮らし全体を捉え、本人に寄り添い継続的につながり続ける支援を中心に行います。

支援と共生の地域づくり
区民同士が出会う場や居場所の確保にむけた支援を行います。地域・生活課題が複雑・多様化する中、専門職の介入・支援により地域のなかに交流・参加の機会を生み出すコーディネート機能を確保します。そのことにより、ケアしあう関係性を広げ、多様な役割と参加の機会や地域での助け合いを生み出します。

コーディネーター

地域生活課題を抱えている方が地域の皆さんと一緒に解決に取り組めるよう関係機関との連携に向けた調整を行うつなぎ役です。高齢者施策に関わるコーディネーター、地域福祉に関わるコーディネーター、その他専門分野に関わるコーディネーターがそれぞれの役割を適切に果たすとともに、相互に補完しあいながら地域づくりを推進していきます。



大田区

第8期計画は、「大田区版地域共生社会の実現」のため、2025年に向け地域包括ケアシステムのさらなる推進を図っていくことを軸に取り組みます。取組にあたっては、以下の3つの視点をふまえ、PDCAサイクルによる事業評価・検証のもとに取組内容を充実・改善していきます。

- ①「切れ目のない支援」：元気・介護など「状態の切れ目」に加え、高齢・障がいといった「分野の切れ目」、性別、年齢などの「属性の切れ目」なく対応
- ②「地域力」：区民一人ひとりの力を源として、様々な主体が持っている力、それぞれが相互及び区の連携・協働によって生まれる力を地域づくりのために欠かせない力として活用することで、多様な主体による重層的な支援体制を構築
- ③「新たな取組の導入」：新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、「新たな生活様式」や「3密を避ける取組」等に対応するなど、従来の枠組みにとられない柔軟な発想力と、冷静なデータ・状況分析力に基づく事業の再構築や開発を継続して行うといった、新たな取組を積極的に導入